

# 附属幼稚園と大学教員の連携活動 ～ほしぞら保育での本物体験を通して～

附属幼稚園では、5歳児を対象とした「ほしぞら保育」を9月中旬に実施しています。「ほしぞら保育」は、子どもたちが夜まで、教師や友達と一緒に過ごし、夜の幼稚園の雰囲気や、夜ならではの活動を楽しみます。今年度、6月の遠足で柏原キャンパスに行った際、理数情報教育系の松本桂准教授にご協力いただき、天文台やプラネタリウムを見せていただきました。子どもたちは、天文台の設備や大きな望遠鏡に驚いたり、3Dメガネを掛けて見るプラネタリウムに喜んだりする姿が見られました。遠足後、宇宙や星に興味をもって遊ぶ子どもの姿も見られたことから、今年度の「ほしぞら保育」では、夜ならではの活動として、大学施設を利用した天体観測を行ってみたいと考えました。子どもたちに本物の体験をということで松本先生に相談したところ、快く引き受けてくださり、今回の取り組みが実現しました。



きれいに染まりますように！

自分でできるよ！



「ほしぞら保育」では、子どもたちが自分でグループの色に染めたTシャツを着用します。以前より、表現活動教育系の佐藤賢司教授が、染色体験を指導してくださっており、今年度も子どもたちは佐藤先生と一緒に染色活動を楽しみました。輪ゴムや紐を使って模様をつくるということをお教わると、あとはすべて子どもが自分でやってみます。模様も染まり方も、出来上がるまでのお楽しみです。自分でつくったTシャツは子どもたちのお気に入りとなり、行事後も喜んで着ている姿が見られます。



電車で乗って、山の上の大学へ。  
大学ってめっちゃ広いところやなあ

おまつりごっこ  
おいしいおやつがいっぱいで嬉しいな！



染め物名人の佐藤先生と  
粘土博士の谷村先生も遊びに来てくれたよ！

夜の大学では、虫の声や風の音も  
聞こえたよ！



自分たちでも プラネタリウム  
をつくってみよう！



本物の土星が見えた！  
土星ってめっちゃ  
きれいなんやなあ



夜には、松本先生にご指導いただき、望遠鏡で本物の土星を見ることができました。「まるで僕が宇宙にいてる気分」「輪っかが虹色できれい」「図鑑の写真と一緒に」と子どもたちは大喜びで、天体観測は親子の特別な体験となりました。



当日は、大学と附属学校園連携事業としての取り組みで、土粘土を使って一緒に活動している、表現活動教育系の谷村さくら特任准教授も子どもたちの様子を見に来ていただきました。大学施設を利用した「ほしぞら保育」は、今年度が初めての試みでしたが、大学や大学教員に支えられながら、子どもたちや保護者、また幼稚園教員にとってもより特別で楽しい活動となりました。また、幼稚園での保育だけでは、かなえられない本物体験の貴重な機会となり、ここで子どもたちが気付いたことや感じたことが、これからの子どもたちの成長につながっていくと思われます。今後も大学や大学教員と一緒に、子どもたちにとってよりよい保育について考え、実践していきたいと思ひます。